

厚生労働大臣 様

開設者 公立大学法人福島県立医科大学
理事長 高地 英夫

公立大学法人福島県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成 18 年度の業務に関して報告します。
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	47.1 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	276人	134.3人	410.3人	看護業務補助	25人	診療エックス線技師	人
歯科医師	2人	6.4人	8.4人	理学療法士	4人	臨床検査技師	57人
薬剤師	27人	人	27.0人	作業療法士	人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	4人	その他	人
助産師	30人	人	30.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	425人	17.2人	572.2人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	2.2人
准看護師	1人	人	1.0人	栄養士	人	その他の技術員	1.8人
歯科衛生士	1人	人	1.0人	歯科技工士	人	事務職員	64人
管理栄養士	6人	人	6.0人	診療放射線技師	36人	その他の職員	41.5人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	638.6 人	2.8 人	641.4 人
1日当たり平均外来患者数	1,641.4 人	24.6 人	1,666.0 人
1日当たり平均調剤数		797.7 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	/ 人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
・人工中耳	有・無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> 有・無	2 人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
・栄養障害型表皮水泡症のDNA診断	有・無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	40 人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0 人
・成長障害のDNA診断	有・無	人
・生体部分肺移植術	有・無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	/ 人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	8 人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	①有・無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
・カフェイン併用化学療法	①有・無	/人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
・特異性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	人
・脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・①無	25人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
・活性化血小板の検出	有・無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・①無	9人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	⑦有・無	0人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	⑦有・無	16人
・顎顔面補綴	有・無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
・歯周組織再生誘導法	有・無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・無	人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
強度変調放射線治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・無	人
インプラント義歯	有・無	人
顎顔面補綴	有・無	人
人工中耳	有・無	人
歯周組織再生誘導法	有・無	人
抗がん剤感受性試験	有・⑦無	10人
腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
生体部分肺移植術	有・無	人
活性化血小板の検出	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	人
眼底三次元画像解析	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ 無	5 人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	70人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	25人
・多発性硬化症	29人	・ウェゲナー肉芽腫症	17人
・重症筋無力症	52人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	46人
・全身性エリテマトーデス	158人	・多系統萎縮症	11人
・スモン	0人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	5人
・再生不良性貧血	36人	・膿疱性乾癬	5人
・サルコイドーシス	55人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・原発性胆汁性肝硬変	45人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	86人	・重症急性膵炎	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	62人	・特発性大腿骨頭壊死症	31人
・結節性動脈周囲炎	12人	・混合性結合組織病	24人
・潰瘍性大腸炎	82人	・原発性免疫不全症候群	3人
・大動脈炎症候群	19人	・特発性間質性肺炎	14人
・ビュルガー病	7人	・網膜色素変性症	14人
・天疱瘡	8人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	28人	・原発性肺高血圧症	3人
・クローン病	19人	・神経線維腫症	6人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	16人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	88人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	3人
・アミロイドーシス	8人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	3人
・後縦靭帯骨化症	46人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月4回程度実施している。	
剖検の状況	剖検症例数 53例	剖検率 20%

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Angiotensin II負荷LDLレセプター欠損マウスに観察される高血圧・高脂血症ヘムオキシゲナーゼ産物一酸化炭素(CO)の役割	石川和信	第一内科	10万円	補委 高血圧と冠動脈疾患研究会
鉄調節ホルモン・ヘプシジンが動脈硬化の発症と進展に与える影響に関する研究	石川和信	第一内科	100万円	補委 財団法人持田記念医学薬学振興財団
虚血性心疾患と心不全の診断を目的として、超音波画像を用いた壁運動解析、造影法の評価を行う	高野真澄	第一内科	100万円	補委 東芝メディカルシステムズ株式会社
非ゲラニルゲラニル化低分子GTP結合蛋白質の動脈硬化における役割と動脈硬化予知に関する研究	大河原浩	第一内科	300万円	補委 万有生命科学振興国際交流財団
骨髄不全症候群症例における免疫機構の解明	池田和彦	第一内科	170万円	補委 文部科学省科学研究費
循環器研究委託費事業	丸山幸夫	第一内科	100万円	補委 国立循環器病センター
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	大平弘正	第二内科	500千円	補委 厚生労働科学研究費
難治性膵疾患に関する調査研究	入澤篤志	第二内科	300千円	補委 厚生労働科学研究費
GNSループスにおける抗トリオースリン酸イソメラーゼ(TPI)抗体の病原性の検討	渡辺浩志	第二内科	500千円	補委 文部科学省科学研究費
ベーチェット病に関する調査研究	小林浩子	第二内科	1,000千円	補委 厚生労働科学研究費
Toll-like receptorを介した自然免疫による炎症性長疾患の制御	片倉響子	第二内科	2,400千円	補委 文部科学省科学研究費
				小計 11

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
超音波内視鏡による慢性膵炎の早期診断と内視鏡的治療—早期慢性膵炎の診断指針と治療の確立に向けて—	高木忠之	第二内科	500千円	補委 財団法人福島県医学振興会医学研究助成
急激な加糖変化に伴う糖尿病性腎症の進展機序	小野崎彰	第三内科	1,500千円	補委 日本学術振興会科学研究費
アディポネクチン糖尿病性腎症に対する影響とその作用機序についての研究	佐藤博亮	第三内科	2,900千円	補委 日本学術振興会科学研究費
食塩感受性高血圧の遺伝子指標としてのG蛋白質共役型受容体キナーゼ4(GRK4)遺伝子多型の意義	眞田寛啓	第三内科	1,600千円	補委 財団法人ソルト・サイエンス研究財団
食塩感受性高血圧患者における利尿薬併用療法の有用性に関する検討	眞田寛啓	第三内科	1,500千円	補委 財団法人福島県医学振興会
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験(JDOI3)	渡辺 毅	第三内科	3,000千円	補委 厚生労働省科学研究費
福島県の特産物のひとつであるヤーコンのメタボリック・シンドロームに及ぼす影響についての基礎的研究	佐藤博亮	第三内科	700千円	補委 プロジェクト研究
2型糖尿病をはじめとする生活習慣病における新しい代替療法の確立—ヤーコンにおける改善効果とその作用機序の解明—	渡辺 毅	第三内科	5,017千円	補委 福島県知事
ポリオ根絶重要国におけるAFPサーベイランス	遠藤一博	神経内科	1,500千円	補委 国際医療協力研究委託費
スモンに関する調査研究	遠藤一博	神経内科	600千円	補委 厚生労働科学研究費補助金
アレルギー疾患の自己管理と個別化医療を目指した早期診断基準と早期治療法の確立及びその有効性と有害事象の評価に関する研究	棟方 充	呼吸器内科	800千円	補委 厚生労働省科学研究費

小計 11

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
びまん性肺疾患に関する調査研究	棟方 充	呼吸器内科	400千円	補 委 厚生労働省科学研究費
特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究	棟方 充	呼吸器内科	1,000千円	補 委 厚生労働省科学研究費
公害健康被害予防事業に係る調査研究事業	棟方 充	呼吸器内科	1,200千円	補 委 環境再生保全機構
メチル化の制御によるフッ化ピリミジン系抗癌剤代謝関連酵素遺伝子の発現調節	寺島雅典	第一外科	1,300千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
食道における組織修復機転を利用した異型細胞の制御と制癌効果への応用	木暮道彦	第一外科	1,500千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
肝線維化機序の解明とその制御～骨髄由来細胞の関与～	土屋貴男	第一外科	1,800千円	補 委 日本学術振興会科学研究費
エネルギーチャージ測定による組織機能評価法を用いた保存臓からの新たな膵島分離法の開発	斎藤拓朗	第一外科	1,600千円	補 委 文部科学省科学研究費
胆管癌における癌部、周囲異型細胞の分子生物学的解析	木村隆	第一外科	2,600千円	補 委 文部科学省科学研究費
膵島移植の臨床応用	後藤満一	第一外科	1,150千円	補 委 福島県医学振興会
脳神経外科手術におけるヒヤリ・ハット事例、事故事例、訴訟事例の分析による手術治療安全対策ガイドライン作成に関する研究	児玉南海雄	脳神経外科	500千円	補 委 厚生労働省
プリオン病の画期的治療法に関する臨床研究と基礎研究	児玉南海雄	脳神経外科	500千円	補 委 厚生労働省

小計 11

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳表組織への高頻度単極電気刺激の安全性の検討	生沼 雅博	脳神経外科	500千円	補 委 文部科学省
下小脳脚障害の探知に関する実験的検討	児玉南海雄 村松 広行	脳神経外科	500千円	補 委 文部科学省
高齢者の腰痛症に係る効果的な診断・治療・リハビリテーション等の確立	菊地臣一	整形外科	2,000千円	補 委 厚生労働科学研究費補助金
日本人における頸部愁訴、および運動器症状の個人あるいは社会に与えるインパクトに関する調査	菊地臣一	整形外科	2,600千円	補 委 日本整形外科学会プロジェクト研究費
地域支援事業における体力向上サービスのあり方に関する研究	菊地臣一	整形外科	0千円	補 委 厚生労働科学研究費補助金
心臓3次元運動解析による心拍動下手術野制御法の開発	横山 斉	心臓血管外科	700千円	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
胸部大動脈疾患におけるステントグラフトの臨床応用	高瀬信弥	心臓血管外科	1500千円	補 委 平成18年度特定助成事業助成金(医学振興会)
社会学・心理学等との連携による国民のリテラシー向上と患者の納得形成に関する研究	佐藤 章	産科婦人科	2,000千円	補 委 厚生労働省
超少子化時代のわが国における新たな不妊症原因の究明と社会に即した治療システムの開発	佐藤 章	産科婦人科	4,000千円	補 委 厚生労働省
母体細胞性免疫破綻とiNOSによる早産発症機構への子宮内プログラミング関与の検討	高橋秀憲	産婦人科	2,100千円	補 委 文部科学省

小計 10

(注) 1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胎児高サイトカイン血症における子宮内プログラミングによる高血圧発症の研究	大川敏昭	総合周産期母子医療センター	1,500千円	補 委	文部科学省
急性脳炎のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解析から新たな治療法確立に向けた研究	細矢 光亮	小児科	800千円	補 委	厚生労働省科学研究費
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	細矢 光亮	小児科	3,500千円	補 委	厚生労働省科学研究費
小児における急性脳炎・脳症の病態・診断・治療に関する研究	細矢 光亮	小児科	1,500千円	補 委	文部科学省科学研究費
インフルエンザ脳症の病態モデルの作成と、その増悪及び改善因子の検討	細矢 光亮	小児科	1,200千円	補 委	文部科学省科学研究費
腎糸球体の再生過程における糸球体内皮細胞の役割に関する検討	川崎 幸彦	小児科	1,100千円	補 委	文部科学省科学研究費
脈絡膜新生血管におけるチミジンホスホリラーゼの発現とその阻害剤による治療	飯田知弘	眼科	2,200千円	補 委	文部科学省
全身麻酔薬の向精神作用に関する神経化学的研究	村川 雅洋	麻酔・疼痛緩和科	1,500千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
輸血用血液の細菌感染防止と血小板製剤の有効性期限延長に関する研究	大戸 斉	輸血・移植免疫部	3,000千円	補 委	厚生労働省科学研究費
C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究	大戸 斉	輸血・移植免疫部	14,000千円	補 委	厚生労働省科学研究費

小計 10

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。